

Minami Kyushu University Syllabus						
シラバス年度	2023年度	園芸キャンパス		都城キャンパス		
科目名称	園芸福祉学特論 I			実務経験	○	Active・L ○
科目コード	642600	単位数	2単位	学位授与方針との関連	DP1, DP2	
教員氏名	林 典生					
授業概要	人間と植物との関係を理解した上で、幅広い意味での福祉的な視点から植物や緑を捉え、それらと人とのより良い関係を構築するための知識と手法を学ぶために、植物や緑の保有する様々な効果について科学的な観点から検討すると共に、それらを取り入れた園芸福祉の可能性について解説する。また、これらの検討・解説したことを踏まえ、植物や緑と触れることによる効果や役割等を理解し、植物や緑の意義について他者にわかりやすく伝える知識と能力を習得する。					
関連する科目	同時に園芸福祉特別演習を履修するとともに、履修前に人間植物関係学特論 I、履修後に人間植物関係学特論 II・園芸福祉特論 II を履修すること					
授業の方法と進め方	授業の流れは前半にテーマに関する配布資料等で園芸福祉にかかわる基本概念や基本知識を再確認するために講義を行う、後半は事前に指定した国内外の論文・書籍をまとめてきた課題を報告し、意見交換をするなどアクティブラーニング型の授業を行います。					
授業計画	<p>1. ガイダンス 園芸福祉学とは 授業の進め方を説明するとともに、資料の読み方に関する講義を行う。</p> <p>2. 植物・緑の持つ療法的効果1 五感による効果 植物・緑による五感への刺激効果を講義するとともに、事前に指定した資料をまとめて発表する。</p> <p>3. 植物・緑の持つ療法的効果2 作業・活動 植物・緑による作業・活動促進効果を講義するとともに、事前に指定した資料をまとめて発表する。</p> <p>4. 植物・緑の持つ療法的効果3 コミュニケーション 植物・緑によるコミュニケーション促進効果を講義するとともに、事前に指定した資料をまとめて発表する。</p> <p>5. 植物・緑の持つ療法的効果4 検証方法と事例1 植物・緑の持つ療法的効果検証方法（質問紙）を講義するとともに、事前に指定した資料をまとめて発表する。</p> <p>6. 植物・緑の持つ療法的効果5 検証方法と事例2 植物・緑の持つ療法的効果検証方法（生体計測）を講義するとともに、事前に指定した資料をまとめて発表する。</p> <p>7. 園芸福祉1 歴史と概念 園芸療法・福祉の歴史と概念を講義するとともに、事前に指定した資料をまとめて発表する。</p> <p>8. 園芸福祉2 クライアント園芸福祉活動プログラム（高齢者） 高齢者を対象にした園芸福祉活動プログラムを講義するとともに、事前に指定した資料をまとめて発表する。</p> <p>9. 園芸福祉3 クライアント別園芸福祉活動プログラム（しょうがい者） しょうがい者を対象にした園芸福祉活動プログラムを講義するとともに、事前に指定した資料をまとめて発表する。</p> <p>10. 園芸福祉4 クライアント別園芸福祉活動プログラム（子ども） 子どもを対象にした園芸福祉活動プログラムを講義するとともに、事前に指定した資料をまとめて発表する。</p> <p>11. 園芸福祉5 クライアント別園芸福祉活動プログラム（コミュニティ） コミュニティに基づく造園福祉活動プログラムを講義するとともに、事前に指定した資料をまとめて発表する。</p> <p>12. 園芸福祉の事例1 生活困窮者支援と園芸福祉 園芸福祉を用いた生活困窮者支援に関する事例を講義するとともに、事前に指定した資料をまとめて発表する。</p> <p>13. 園芸福祉の事例2 刑余者支援と園芸福祉 園芸福祉を用いた刑余者支援に関する事例を講義するとともに、事前に指定した資料をまとめて発表する。</p> <p>14. 園芸福祉の事例3 多文化共生社会と園芸福祉 造園福祉を用いた多文化共生社会形成に関する事例を講義するとともに、事前に指定した資料をまとめて発表する。</p> <p>15. 園芸福祉の事例4 災害支援と園芸福祉 造園福祉を用いた災害支援に関する事例を講義するとともに、事前に指定した資料をまとめて発表する。</p>					
授業の達成目標	<p>1. 園芸福祉活動など植物や緑の効果を理解している。</p> <p>2. 植物や緑の福祉的利用について検討できる。</p> <p>3. 既往の研究や事例から正確な情報を把握できる。</p> <p>4. 植物や緑を用いた園芸福祉プログラムを提案できる。</p> <p>5. プログラムを活用できる場づくりが構築できる。</p>					
授業時間外の学修	第1回目の授業で示す参考図書など、主に基礎的な園芸福祉論に関する資料を授業前に読んでおいてください。授業後に理解が曖昧な時は再度精読してください。また、園芸療法等の園芸福祉に関する実践活動についての知見を深め、社会的意義を理解するために、身近な活動現場に赴き、その実態や位置づけなどについて考察を深めておいてください。予習復習4時間程度必要です。					
課題に対するフィードバック	課題等は確認した後に返却します。必要に応じてコメントします。	評価方法・基準		受講態度や発表、報告物に関して、課題の理解、関係資料の活用、論点の整理、独自の視点について毎回のプレゼンテーションレポート（100%）で評価する。		
テキスト	関連書籍及び関連論文					
参考書	授業中に紹介するが一例として、以下の書籍を紹介する。 森本幸裕・小林達明編著（2007）最新環境緑化学。朝倉書店（都城キャンパスに蔵書有） 古在豊樹・後藤英司・富士原和宏編著（2005）最新施設園芸学。朝倉書店（都城キャンパスに蔵書有）					
備考						